

第11回全国中学生創造ものづくり教育フェア アイデアバック部門 長野県大会 実施要項



写真：第10回 全国中学生創造ものづくり教育フェアより

- 1, 目的 この大会は中学校技術・家庭科教育の一環として中学校生徒に広くものづくり教育の実践・発表の機会を与え、技能の向上と生徒の相互の親睦をはかるものとする。
- 2, 主催 長野県技術・家庭科教育研究会 全日本中学校技術・家庭科研究会
- 3, 後援 長野県教育委員会 信濃教育会
- 4, 日程 平成22年10月31日(日)
- 5, 会場 清水中学校 被服室
- 6, 課題 全国大会課題と同一のものとする。

事前に作品及び製作レポートを事務局(豊科南中)に提出する。

申し込み多数の場合は事務局で審査を行い、県大会出場者10名を選出する。

- 7, 費用 参加料 無料 材料は各自で用意する。(2000円以内)

8, 申込先

〒399-8205 安曇野市豊科1487 安曇野市立豊科南中学校 中山千代子
0263-72-7860 fax0263-72-7870

- 9, 申込方法 所定の用紙に必要事項を記入し、学校長の承認を経て申し込むこと。

申込書 レポート 作品(は県研究会Webページか事務局より) 10月1日必着

競技について（基本的に平成21年度のものと同様とする）

1、競技の課題および課題製作上の注意点について

課題は、『バッグ』とする。

使用する布の合計面積は110cm×50～100cmとする。使用する布は、複数種類使ってもよい。古着を布として利用することは可能だが古着についているポケットやファスナー、ボタン等の部分をそのまま利用することは認めない。（赤字部 追加事項）

『バッグ』について。

- ・裏地は付けず、一重仕立てとする。
- ・立体構成にする。
- ・『バッグ』の口がふさがるようにする。（中身のでない工夫をする）

デザインの工夫は『バッグ』本体とする。

- ・裁断後の残布の量をできるだけ少なくする工夫を入れる。布目方向は丈夫さなどを考慮する。（布目方向が異なるパーツもあってよい）
- ・入れるものの使用目的に合わせて、強度が耐えうる縫い目および縫い代の始末をする。

ポケットは必ず『バッグ』本体に付ける。

（ポケット口は三つ折りにし、手でまつり縫いをする）

スナップは必ず1つ以上つける。（ボタンを付けることは可能）

型紙の作成は事前に行い、当日の競技は『布を整え、型紙の配置』から始めることができるようにする。

『バッグ』につける装飾品は事前に製作してくることは認められない。

（競技時間内で製作する）

当日製作した『バッグ』の利用について、実際に入れるものを使いながら発表会を行う。

1分程度の発表を行う。

競技時間は3時間30分とし、時間内に完成させる。

材料費は、2000円程度とする。

製作レポートは規定の用紙を用いることとし、必ず手書きをして、A4で2枚提出する。

変更のある場合はWebページに掲載する。

2、審査項目

	評価項目	説明
準備	布の整え方・配置	布目が整い、布地にムダが出ないような配置をしているか。 (布目方向が異なることがあるが、布の使い方を工夫し、裁断後の残布の量をできるだけ少なくしているか。)
	裁ち目	裁ち目がきれいにそろって裁断されているか。
	しるし付け	布地にあった方法で、正確に印が付いているか。 角や合い印の付け方がわかっているか。
本縫い	縫い代の量	縫い代が適量であるか。(縫い代の始末による多少の違いはあっても、多すぎたり少なすぎたりしていないか。)
	しつけ及びまち針	本縫いに役立つしつけ又は、まち針が適切にできているか。
	課題の縫製	【ミシン縫い】袋の使用目的に合わせて、強度が耐えうる縫い目及び縫い代の始末等ができているか。ポケットが本体にしっかり付けられているか。 【手縫い】ポケット口を三つ折りにし、まつり縫いをしているか。スナップを1つ以上付けているか。(ボタン付けも可)
	縫う手順	縫う手順に不都合やミスがなく、能率的に正しく縫うことができているか。
技能	ミシンの操作	ミシンの基本的な操作が身に付いているか。
	アイロンの使い方	製作途中にも必要に応じてアイロンを適切に使いこなしているか。
	安全な作業	針やはさみの扱い、ミシンの操作、アイロンかけなどの作業を安全に行っているか。糸くずなどの処理ができているか。
発表	使い方の工夫	実際に入れるものを使い、テーマで意図したことが、具体的に作品上に表現されているか。「私にとってのものづくり」についてのメッセージが入っているか。
その他	完成	時間内に完成できたか。
	デザイン	デザインが使用目的に合っていて、活用に耐えうるものであるか。 作品にアイデアや工夫が生かされているか。
	レポート	「テーマ」「構想」「(私の)豊かさの視点」「私にとってのものづくり」が、具体的に表現されているかがともにはっきりしていて、工夫されているか。何を入れるための『バッグ』かが明確にされているか。

豊かな生活を創るアイデアバック製作レポート

都道府県	がっこうめい 学校名	せいとしめい 生徒氏名
<バックのネーミング>		
<入れるもの>	<製作テーマ >	
<作品PR> 生活の豊かさとおわたしにとってのものづくりの視点を入れて。		
<材料と分量> 使用する材料はすべて個数も記入する。布の材質・種類・用量等も具体的に記入する。	<型紙配置図（必要な枚数を記入）> 布目方向がわかるように記入する。	

<できあがり予想図(デザイン図)> ポイントになることがわかるように前後(横)など角度を変えて記入する。

<作業手順> 1 課題の縫製箇所をわかるように記入する。 2 課題の縫い方を取り入れた部位を記入する。(使用目的に合わせた強度がある縫い目、縫い代の始末 ・ポケットの付け方 ・スナップ付け 中身の出ない工夫)。

